

未来へつなぐ、みやざきの海のバトン



日知屋小と海のリレープロジェクト 第6回目のプログラムを実施

2026年7月16日(木) 【場所】延岡市須美江町



概要

「海のリレープロジェクト」は、日向市教育委員会と連携し、日向市立日知屋小学校の6年生31名を対象に「日知屋小と海のリレープロジェクト」をスタートしました。

本プロジェクトでは、『豊かな宮崎の海を未来へ残していきたい』という想いのもと、5月から7月までの期間、複数回にわたって校外学習や実体験、専門家による講話など、多彩なカリキュラムを通じて海の現状を学習します。

海の恵みを知ろう！～地引網漁体験で漁業の仕事を学ぶ

今回は日向市を飛び出して、お隣の延岡市にある須美江海水浴場へ行きました。

日向市から少し足を伸ばした理由は、ここ須美江で古く行われてきた伝統の「地引網漁」を体験するためです。須美江は湾内にあるため波が穏やかで、魚が住みやすい環境が整っていることから、昔から魚がたくさん獲れる豊かな海として親しまれてきました。

この日は、そんな歴史と恵みにあふれた須美江の海を舞台に、日知屋小学校の6年生31名が地引網漁に挑戦！漁師の仕事や海の豊かさを学び、命をいただく感謝の気持ちを育む学習を実施しました。



※講師の民宿紺碧 甲斐宏明さん



いよいよ、地引網体験です。

講師には同町で民宿を営む甲斐宏明さんを迎え、まずは地引網漁の歴史や仕組み、注意点などをレクチャーしていただきました。地引網漁とは、沖に仕掛けた網を陸からロープで引き寄せて魚を捕る漁法です。今回は約100メートルの網を、みんなで力を合わせて引き寄せます。子どもたちにとっては大変な作業でしたが、全員で懸命にロープを引っ張りました。「せーの！」と声を掛け合いながら力いっぱい引き続けていると、少しずつ網が浜辺へと近づいてきます。





やがて魚の姿が見え始め、引き上げた網の中には約 100 匹もの魚が掛かっていて、子どもたちは跳ねる魚に手を伸ばし、「この魚は何ですか？」と興味津々に観察していました。この日獲れたのは、ハマチやタイ、カンパチといった馴染みのある魚から、サカタザメやイシガキフグなど珍しい種類まで約 10 種類。普段は見られない珍しい魚の登場に、子どもたちから大きな歓声が上がっていました。



※獲れたさかなの説明をするさかな芸人ハットリ氏と緒方氏。さかなに関する質問にはなんでも答えてくれます！

網を引き上げた直後には、魚を新鮮に美味しく味わうための「神経締め」や「血抜き」の実演も行われ、子どもたちは甲斐さんから適切な魚の処理方法を学びました。その後、獲れた魚はフライにしてカレーに添えて提供され、子どもたちは「自分で獲った魚は美味しい！」と笑顔で味わっていました。一連の体験を通して、自然への感謝や命の尊さ、食べ物大切さを実感する貴重な時間となりました。



さかなと水辺の環境について学ぼう！

講師を務めてくださったのは、宮崎大学農学部研究員の緒方悠輝也先生です。

第1回目の授業で緒方先生から「宮崎の水辺のはなし」を学びましたが、今回はさらに踏み込み、「水辺とさかなの環境の関係性」について学びました。さかなをはじめとする生き物たちは、栄養豊富できれいな水辺であるほど豊かな生態系を作り出します。そうした水辺は、魚や植物、その他の生き物すべてにとって、命を育むかけがえのない場所となっているのです。

ここ延岡市は、黒潮に乗った暖かい水と大分県からくる冷たい水が合流するため、暖かい地域の魚と冷たい場所に生息する魚の両方が獲れる、とても恵まれた地域です。

では、なぜこれほど多様な種類のさかなが生息できるのでしょうか。それは、海だけでなく、川や磯など、さかなたちにとって多様な環境が整っているからです。まさにここが、今回のテーマである「水辺とさかなの環境」の話を繋がってきます。実は、さかなたちにはそれぞれ好みの「すみか」があり、成長に合わせてその「すみか」を変えながら生きていくことを教えてくださいました。



例えば、スズキやクロダイは生まれてすぐは砂浜にいて、1～2歳ほどになると浅場や川の入り口に移動し、プランクトンや小魚を食べて暮らします。そして、さらに大きくなると荒磯や深めの海域で暮らすようになります。このように、海だけではなく、さまざまな水辺を行き来しながら成長していくさかなもいるのです。

もちろん、水がきれいでないと彼らは生息できません。山からの栄養豊富な水は、川を流れて海へとやってきます。山・川・海はつながっているため、自然全体を守っていかなければなりません。地球温暖化の影響だけでなく、人の手によって生き物たちのすみかが減ってきていることも教えていただきました。

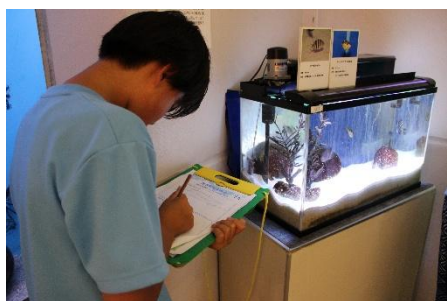
最後に緒方先生は、「川や海にたくさん出かけて、たくさんの生き物と出会って、たくさん楽しんでほしい」と話されました。自然のなかでたくさんの生き物と出会い、知ることで「この海を守りたい」という気持ちが芽生え、子どもたちが将来の環境の守り手になってくれるかもしれません。



すみえファミリー水族館でさかなを観察しよう！

宮崎の豊かな海についてたっぷり学んだ後は、いよいよ「すみえファミリー水族館」へ！館内には、延岡近海に棲む海の生き物から、河川や湖沼に生息する淡水魚までがずらりと展示されています。全国的にも珍しいとされる巨大魚「アカメ」の姿もあり、子どもたちの視線を釘付けにしていました。

見学は、緒方先生班とさかな芸人ハットリさん班の2グループに分かれてスタート。ここでも子どもたちの豊かな個性が溢れ出します。水槽に張り付くように観察して熱心にメモを取る子もいれば、タッチプールでナマコを嬉しそうに掴み上げる子、「ちょっと怖いけど…」と勇気を振り絞って触ろうとチャレンジする子など、思い思いに楽しむ姿が見られました。



緒方先生とハットリさんは、そんな子どもたちの興味や個性に寄り添いながら、魚の面白い特徴を教えてくれたり、飛び交う質問に丁寧に答えてくれたりしました。魚のプロフェッショナルから直接生きた解説をしてもらえる、なんとも贅沢な時間でした。



さいごに

水族館を大満喫し、帰路につくバスの車内。静かになったなと振り返ると、ぐっすり眠りにについている子どもたちの姿がありました。「たくさん学んで、いっぱい遊んで疲れたね」そんな微笑ましい余韻に包まれながら、無事に学校へと帰りました。



緒方悠輝也さん

宮崎大学農学部 研究員



さかな芸人ハットリさん

さかなを愛する水産芸人



古田とわ （ふるたとわ）

MRT 宮崎放送アナウンサー



本プロジェクトは、“海”を次の世代へリレーしていく取り組みです。

宮崎が誇る豊かな海を未来へ受け継ぎ、30年後、50年後、そして100年後も変わらぬ海を守り続けることを目指しています。海洋教育プログラムやビーチクリーン活動、情報発信などを通して、地域社会と連携しながら、“海”という名のバトンを未来へつないでいきます。

mrt宮崎放送